

2018年12月熊本大学大学院自然科学研究科理学・数学専攻

## 理学専攻および数学専攻基礎数理コース M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは2018年3月に修了した自然科学研究科理学専攻および数学専攻基礎数理コースの大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学・数学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2018年2月16日(金)

提出場所: 理学系教務係

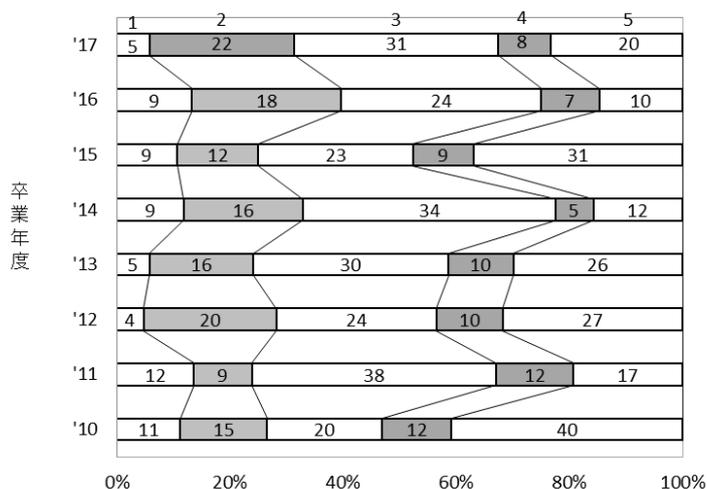
結果、87名から回答を得ることができた。回収率は98%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

### あなたの研究分野は何ですか

1. 基礎数理      2. 物理科学      3. 化学  
4. 地球環境科学   5. 生命科学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

数学以外のコースは前年度に比べ人数が増えている。年度によって多少の増減はあるが、大きな変動は見られない。



## A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：76件

多くあった意見をまとめると以下のようになる。

研究を深めたい（継続したい）	42件
勉強したかった	
（スキルアップのため、研究活動に興味があった等）	11件
学部と同じ環境で学びたい	10件

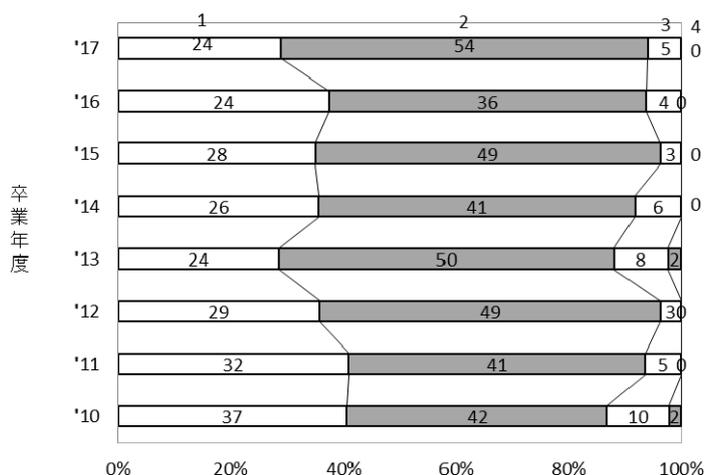
## B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。（該当しない人は次ページの質問（B7）に進んで下さい）。

(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

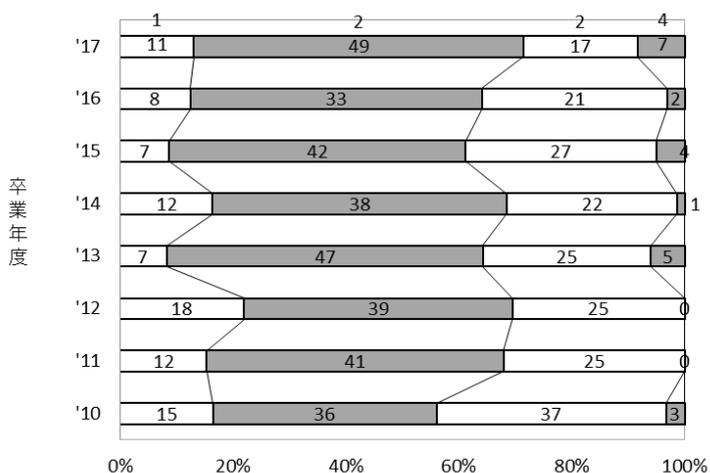
意見など：5件



(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目（専門基礎科目も含む）は、大学院での学習・研究に有益でしたか。

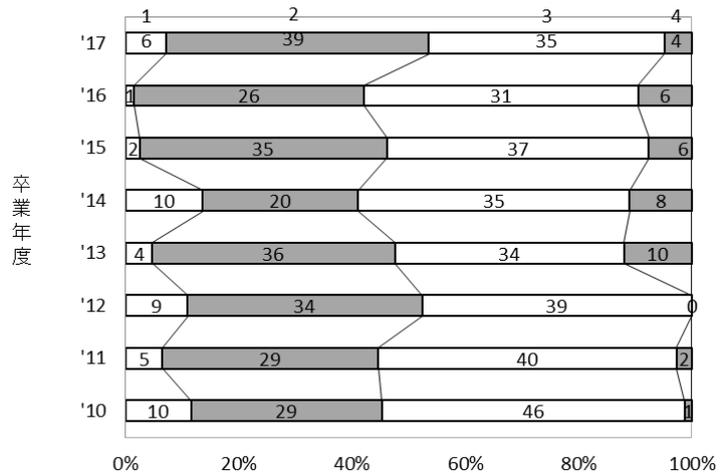
1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

意見など：3件



(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有益でしたか. 具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい.

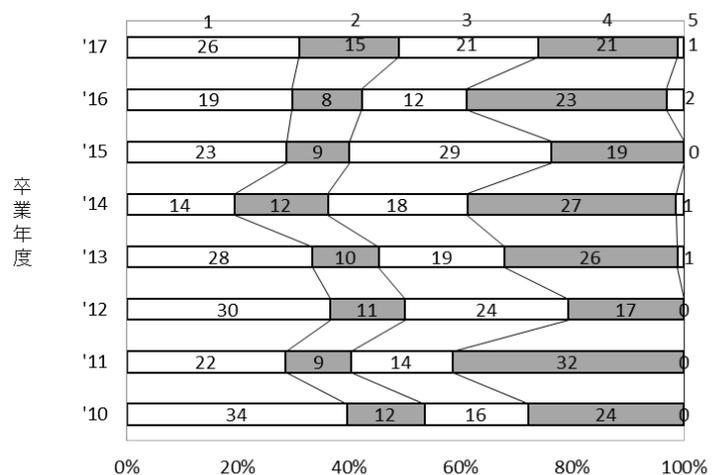
1. 非常に有益だった
  2. 有益だった
  3. あまり有益ではなかった
  4. 有益ではなかった
- 意見など：5件



専門分野に関連する学部の専門科目は「有益」と「ある程度有益」で約9割を占めている。専門分野外の学部の専門科目では70%程度になっている。教養教育に関しては、有益だったとする割合がほぼ半数であった。

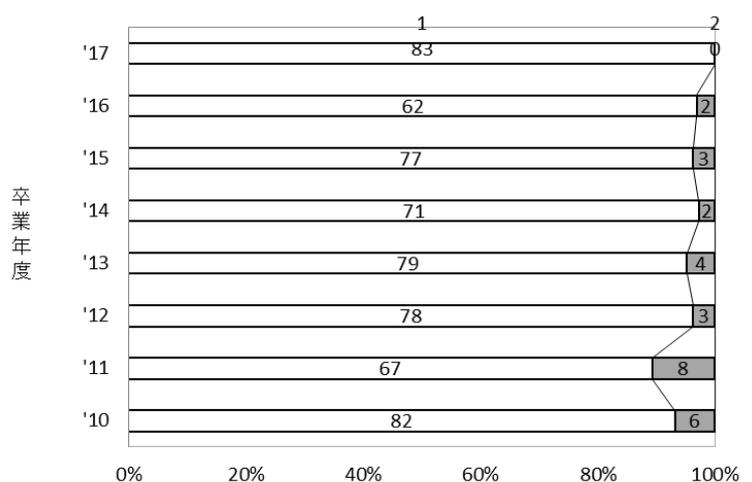
(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか.

1. 入学前
  2. 1年終了時
  3. 2年前期終了時
  4. 2年後期
  5. その他
- 意見など：2件



(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったですか.

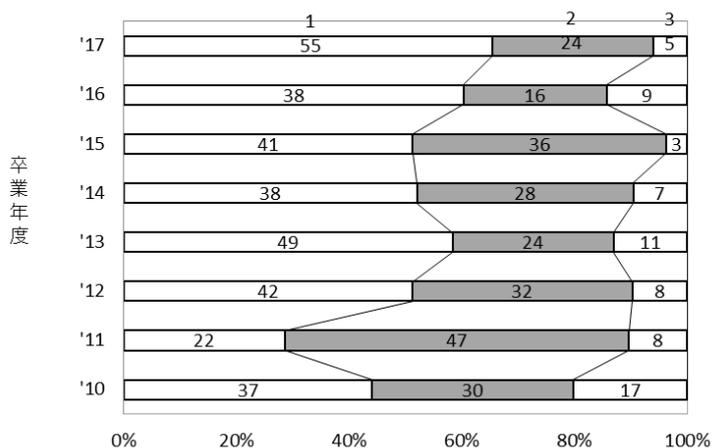
1. 思う
  2. 思わない
- 意見など：3件



(B6) 現在、3年進級時にコースを選択していますが、今かえりみていつがよかったと思いますか。

1. いまのまま (3年進級時)
  2. 2年後期から
  3. その他
- 意見など：9件

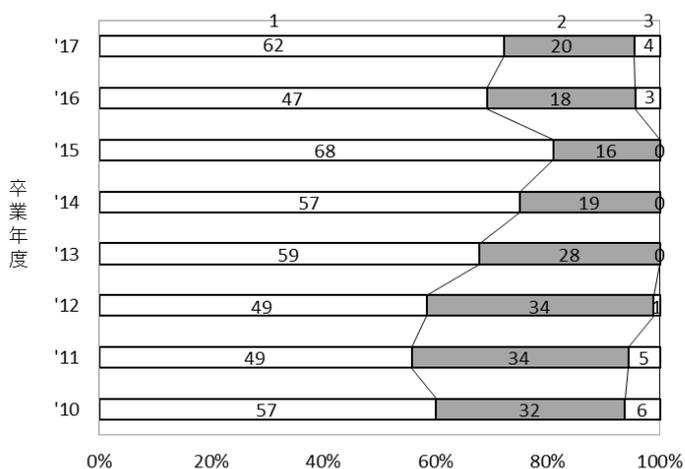
約半数の学生が学部1年次終了の段階で専門分野を決めている。残りの半数は2年次で決定している。コース選択の時期についての問いに関しては「いまのまま (3年進級時)」とする回答の割合が増えている。



### 自然科学研究科での授業についてお聞きします。

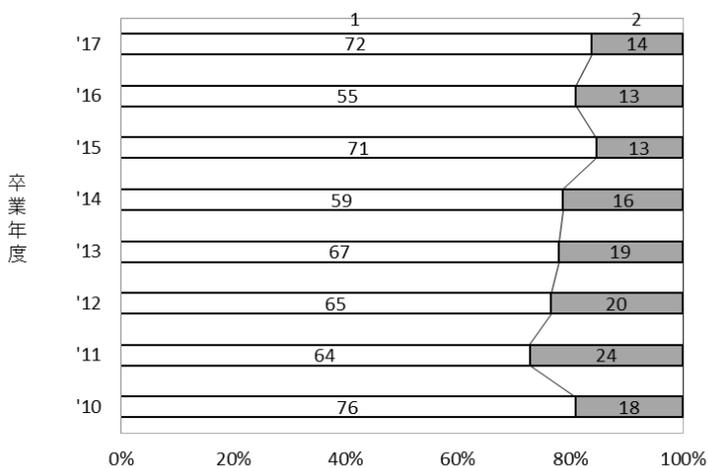
(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 適切であった
  2. どちらとも言えない
  3. 不適切であった
- 意見など：5件



(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 66件)
  2. 履修しなかった
- 意見など：5件



必修と選択の割合については、約70%が「適切」としている。また、集中講義は8割以上の院生が履修している。科目数としては1-3科目と答える学生が多い。さらに受講機会が増えるようにしていく必要がある。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

科目名, 意見など 53 件

専門に近い科目で特に印象に残った講義を挙げた回答が多い。専門分野の理解や研究に直結して役立てられていると思われる。

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

科目数：平均 3.2 科目（うち集中講義 平均 1.9 科目）

回答数：79 件

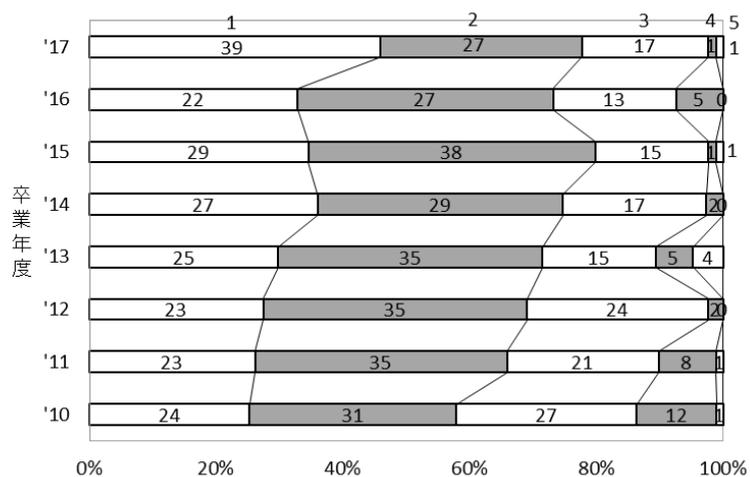
意見など：1 件

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：3 件

「満足」「どちらかといえば満足」の学生が 7 割を越えている。「どちらとも言えない」という回答を更に減らしていく必要がある。

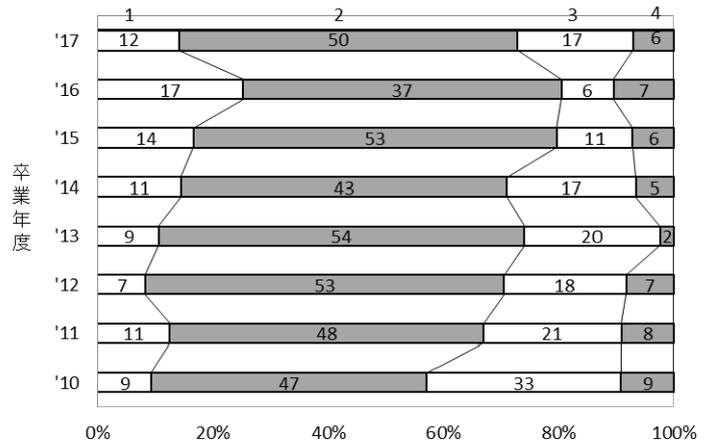


自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 学生便覧に掲載されている自然科学研究科の教育目的は理解していましたか。

- 1. 十分理解している
  - 2. ほぼ理解している
  - 3. よくわからない
  - 4. 知らない
- 意見など：0件

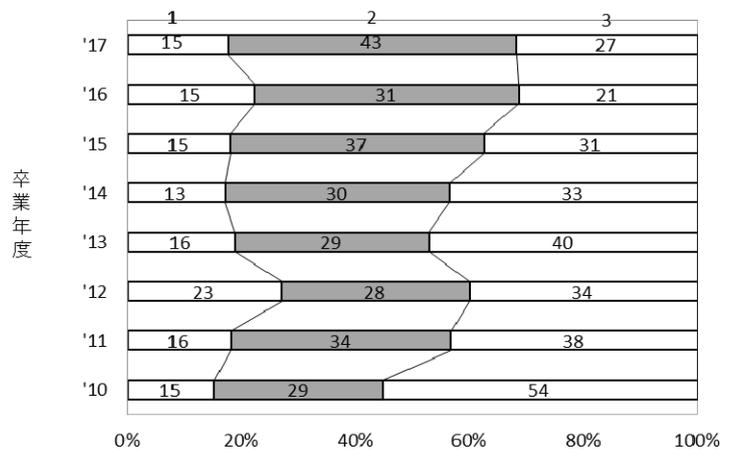
「十分理解」「ほぼ理解」で7割近くであった。「よくわからない」が増えた。



(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

- 1. メリットはあった
  - 2. わからない
  - 3. メリットはなかった
- 意見など：3件

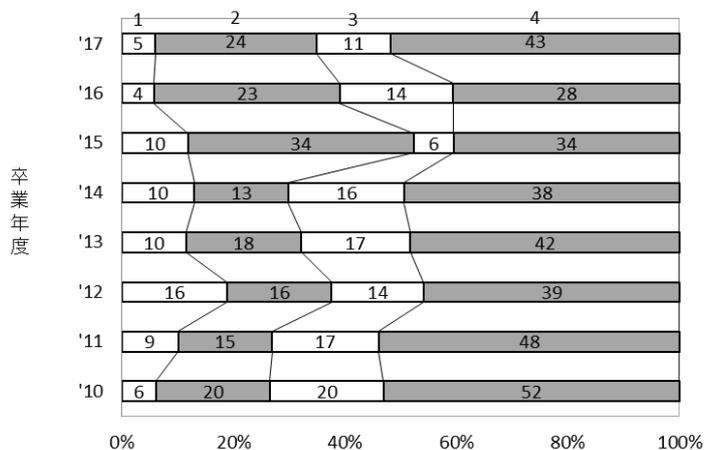
「メリットがあった」とする割合が20%未満であり、年々「わからない」とする回答も増加している。具体的にどのようなことができるのか学生への情報提供を今後精力的に行う必要がある。



(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

- 1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
  - 2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
  - 3. 学術以外の交流があった
  - 4. 全くなかった
- 意見など：5件

工学系の大学院生と何らかの交流がある院生が5割弱となっている。

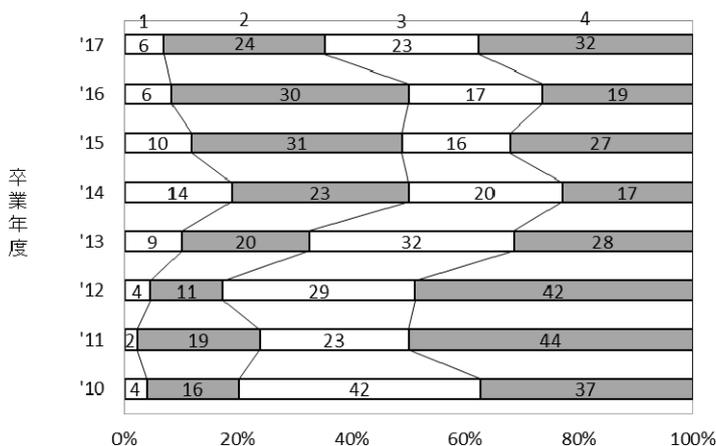


(B15) 研究分野の異なる大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 一緒に研究した
2. 一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

意見など：1件

理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は6割程度である。「全くなかった」との回答も多い。交流する機会を増やすための場を提供していくことが課題である。

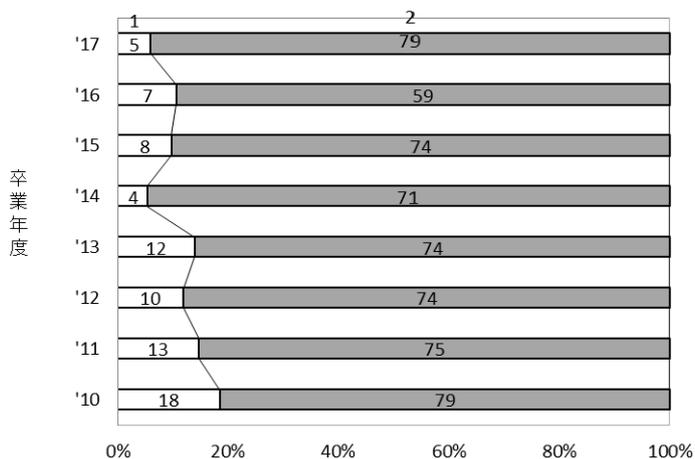


(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）の授業科目は履修しましたか.

1. 履修した（科目数：回答数6件）
2. 履修しなかった

意見など：0件

他専攻の科目の履修者は相変わらず少ない。

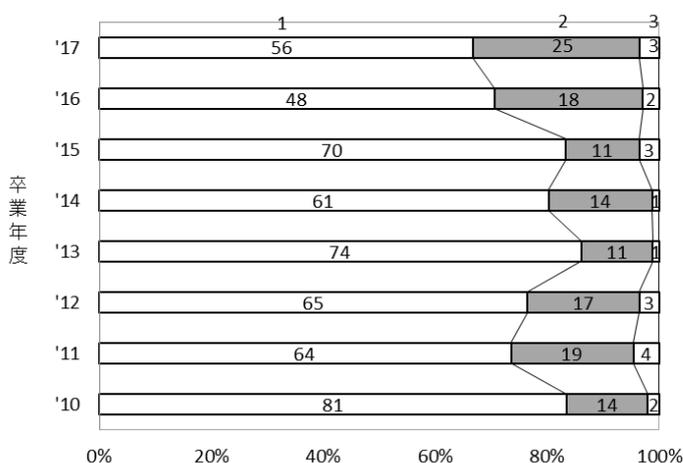


(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか.

1. 履修した（科目数：回答数47件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

意見など：3件

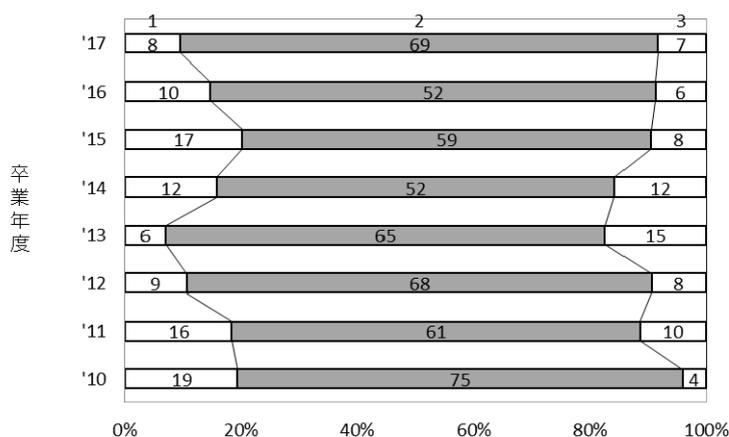
7割弱の院生が履修している。



(B18) 全専攻共通科目のうち高度教養科目、外国語リテラシー科目、総合科学A~C、IJEP科目、MOT科目は履修しましたか。

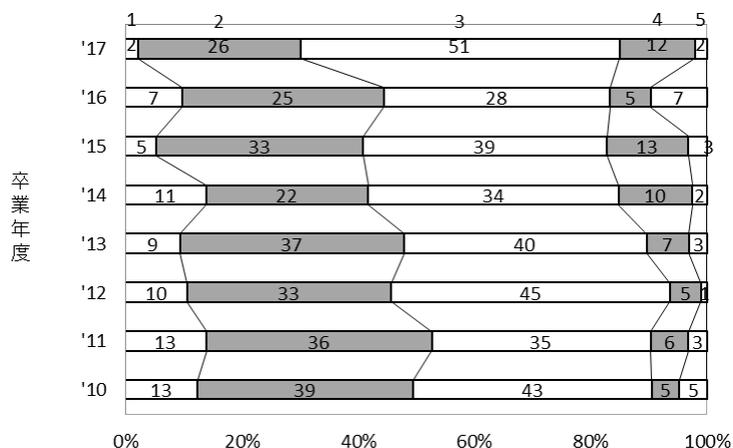
1. 履修した (科目数: 回答数 7 件)
  2. 履修しなかった
  3. 知らなかった
- 意見など: 1 件

(B17)と対照的に履修した院生の割合はかなり少ない。



(B19) 自然科学研究科の授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。(複数選択可)

1. 全て英語が良い
  2. 専門用語は英語が良い
  3. 基礎的な内容は日本語が良い
  4. 全く必要ない
  5. その他
- 意見など: 4 件

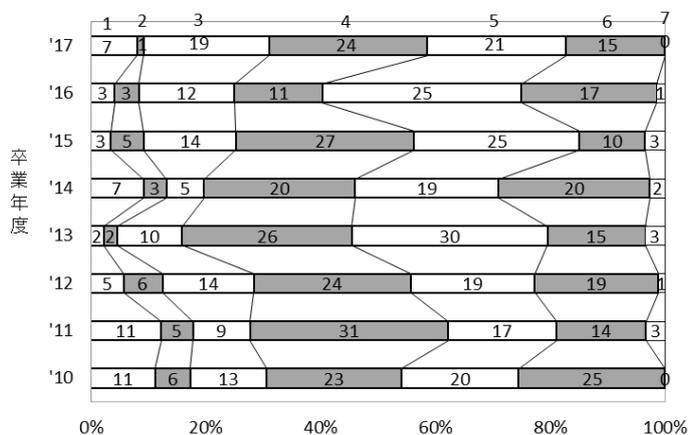


「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い。一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が減っている。大学院教育における英語の使い方を検討すべきだろう。

(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

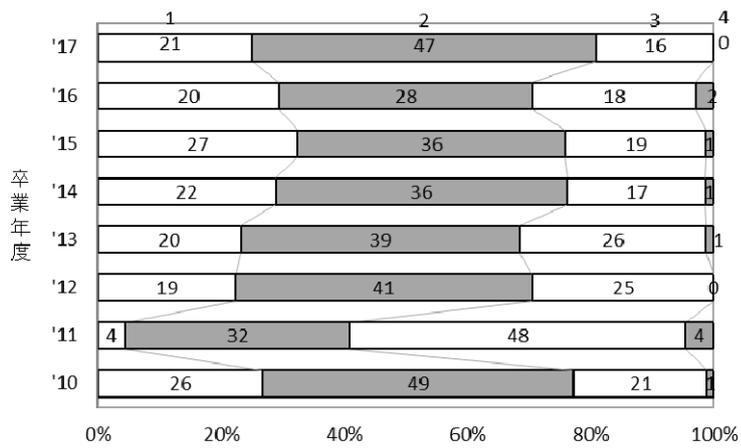
1. 1年次
  2. 2年次
  3. 3年次
  4. 4年次
  5. M1
  6. M2
  7. その他
- 意見など: 5 件

「4年次」「M1」が多く、「M2」と答える学生が減っている。研究室で研究を行うようになってから、勉学意欲が上がっているものと思われる。2年次の割合が少ないのは問題である。

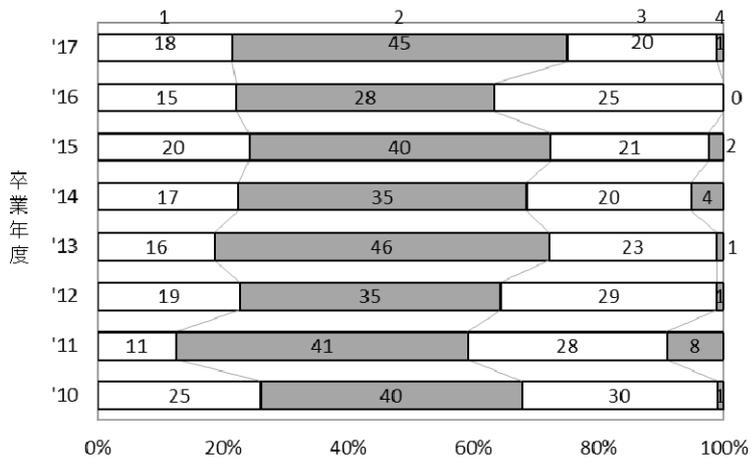




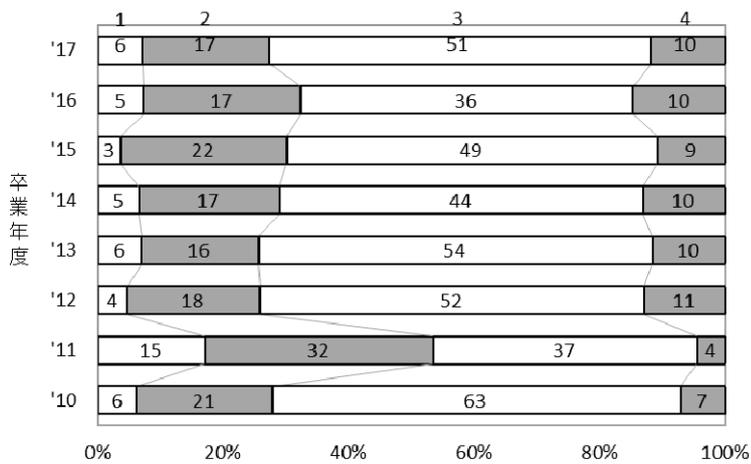
b. 専門知識 :



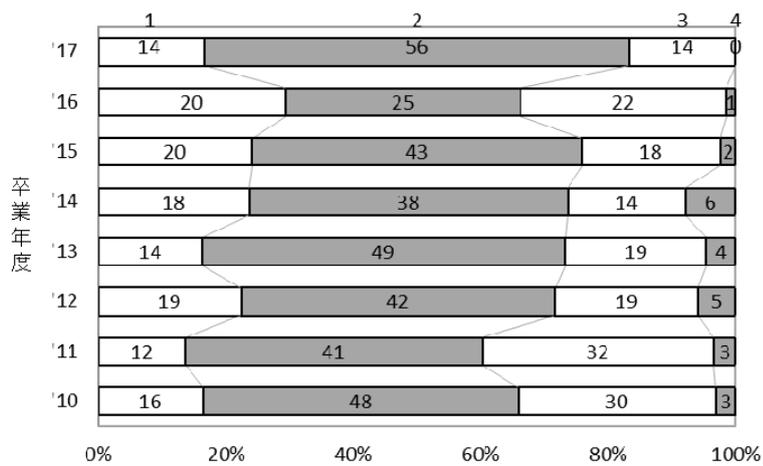
c. 技術・技能 :



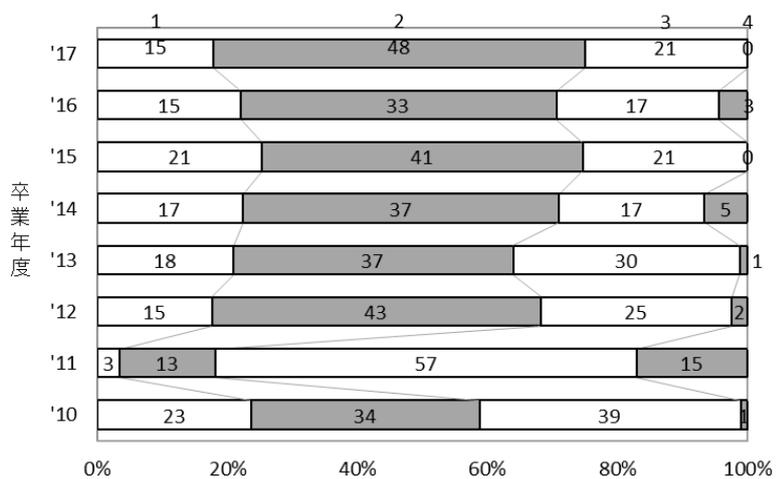
d. 英語を含めた外国語運用力 :



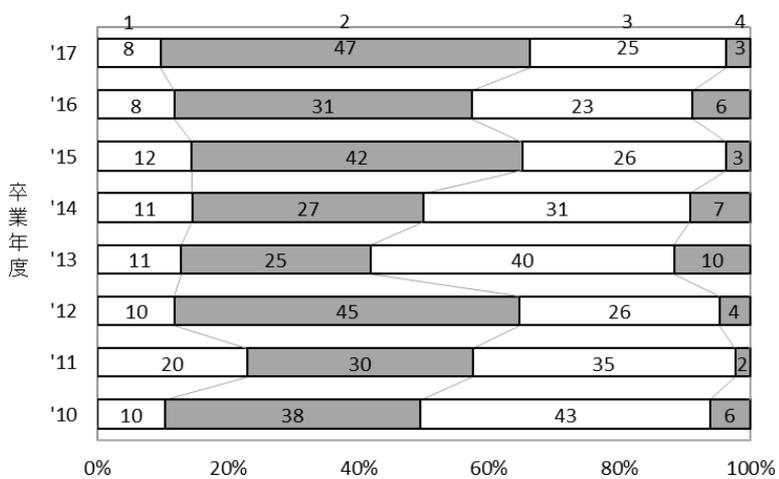
e. 一般的なコミュニケーション力 :



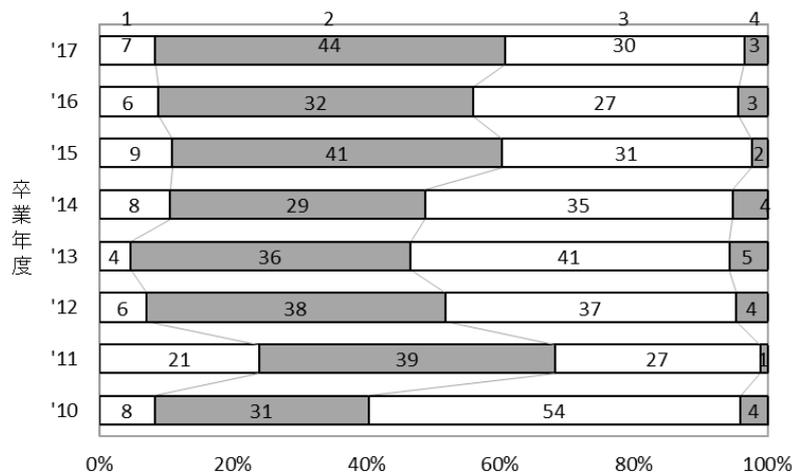
f. プレゼンテーション力 :



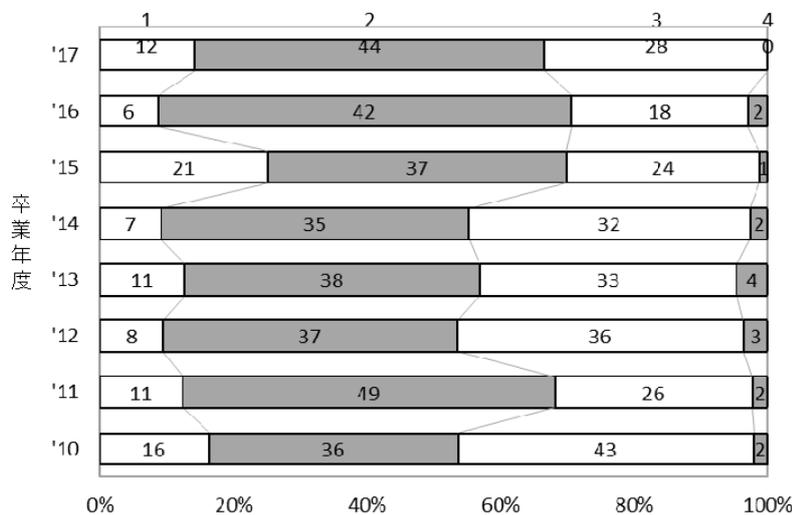
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力：



i. 課題発見・解決力：

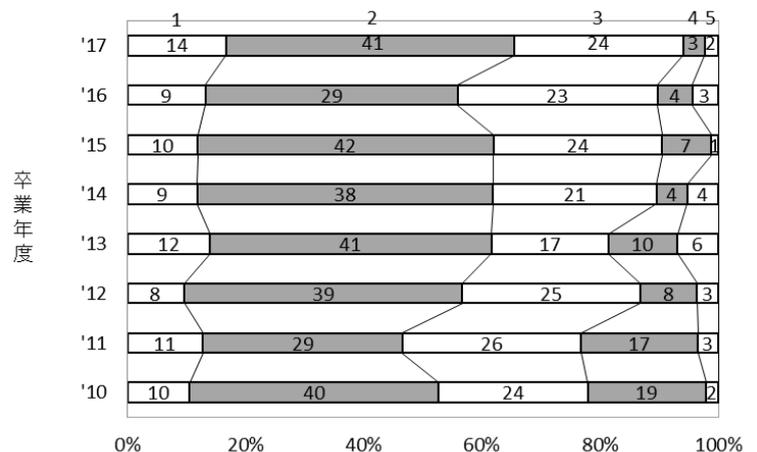


専門知識、技術・技能、一般的なコミュニケーション力、プレゼンテーション力について「身に付いた」「ある程度身に付いた」という回答が多いのが今年の特徴である。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満

意見など：1件



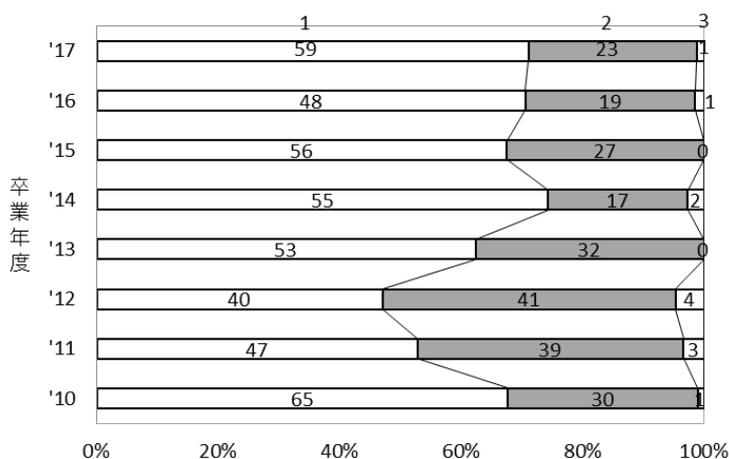
「満足」「どちらかといえば満足」を足し合わせると60%強あり、過去と比べて多くなった。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均として  
 どれだけ費やしましたか。

1. 毎日
  2. 週の半分ぐらい
  3. ほとんどしなかった
- 意見など：3件

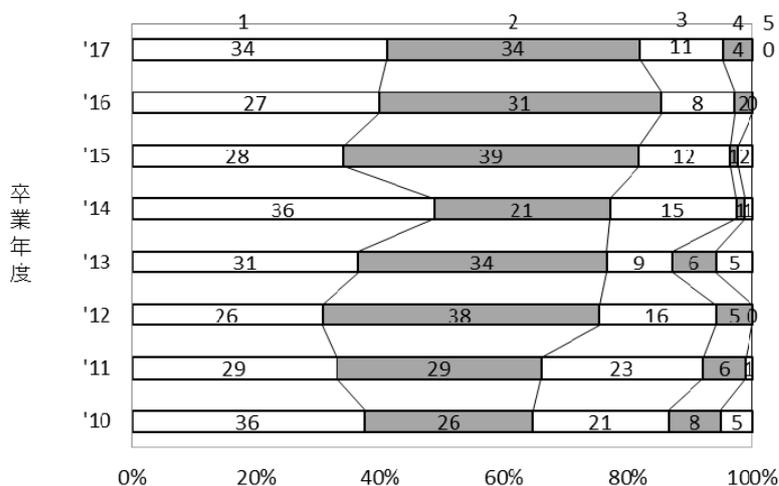
毎日」とする学生が約 70%である。残りの半分は週の半分以下しか研究に使っていない。設問が毎日か半分しかないの  
 で、回答がしにくいかもしれない。



(B25) 大学院での研究指導体制に  
 対して満足していますか。

1. 満足
  2. どちらかといえば満足
  3. どちらとも言えない
  4. どちらかといえば不満足
  5. 不満足
- 意見など：3件

「どちらかといえば満足」以上の  
 回答が 8 割を越えている。今後は、  
 「どちらとも言えない」「どちらかとい  
 えば不満足」とする人の数をさらに減らしていく努力が必要であろう。



(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：53件

中間発表や学会発表などの発表を挙げたものが多かった。セミナーおよびプロゼミも多い。発表することが研究に重要であることを実感していると思われる。

### C. 修了後の進路について

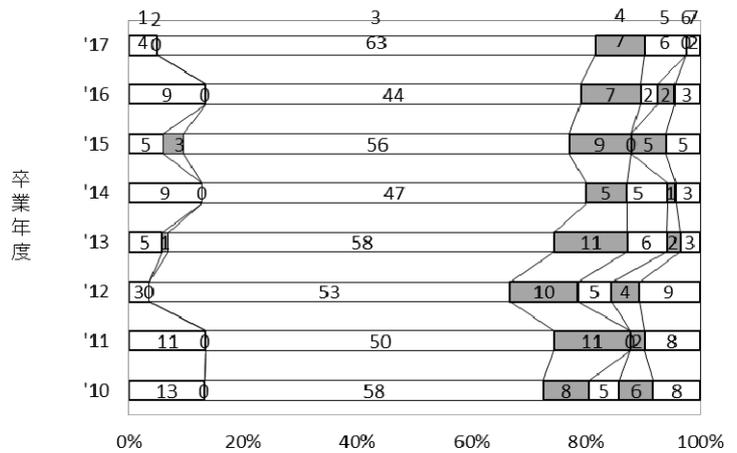
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

3. 民間企業
4. 教職  
(非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他 (進学・就職以外) : 5 件



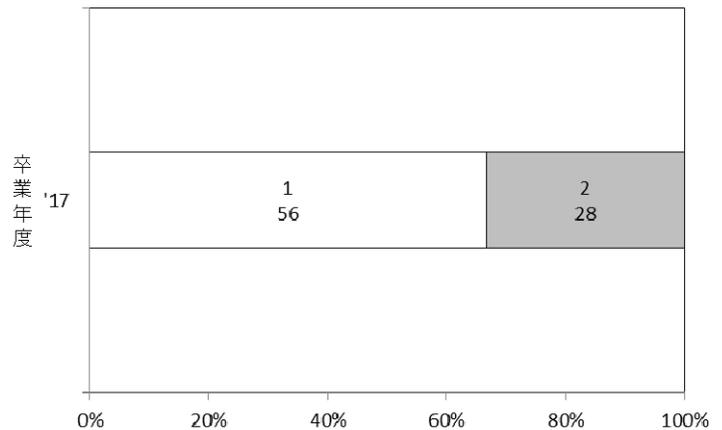
例年ほぼ同様の傾向で、民間企業に就職する院生が多い。教職や公務員も大学院生の進路として一定数ある。昨年度に比べ後期課程への進学者が減っている。

(C2) M1の時に開催している進路説明会に

は出席しましたか.

1. はい
2. いいえ

意見など : 0 件



(C3) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きます。進学をいつ決めましたか.

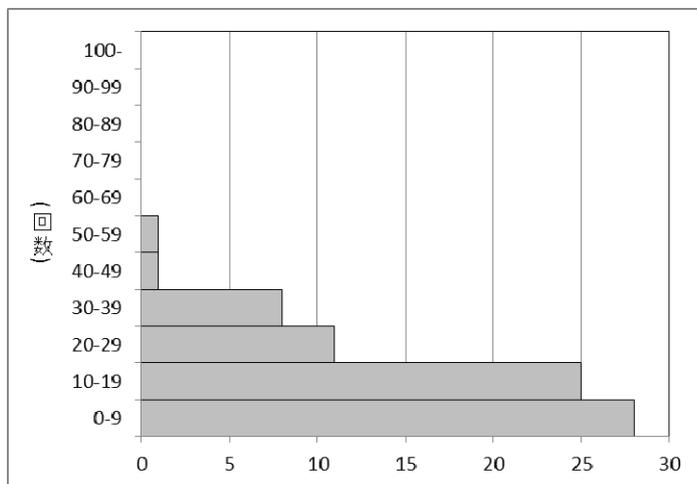
回答数 : 4 件

- 研究室配属時 (1名)
- 4年初め (1名)
- M1の4月 (1名)
- M2の4月 (1名)

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C4) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回答数：75 件



ピークは0-9回にあるが、10-19回という院生も多い。

(C5) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

開始時期	人数
平成 28 年 2 月	2
平成 28 年 3 月	2
平成 28 年 10 月	1
平成 28 年 12 月	4
平成 29 年 1 月	9
平成 29 年 2 月	5
平成 29 年 3 月	44
平成 29 年 4 月	4
平成 29 年 5 月	2
平成 29 年 6 月	1
平成 29 年 7 月	1

終了時期	人数
平成 28 年 5 月	1
平成 28 年 8 月	1
平成 29 年 3 月	1
平成 29 年 4 月	7
平成 29 年 5 月	10
平成 29 年 6 月	32
平成 29 年 7 月	10
平成 29 年 8 月	5
平成 29 年 9 月	4
平成 29 年 10 月	2
平成 29 年 12 月	2

意見など：2 件

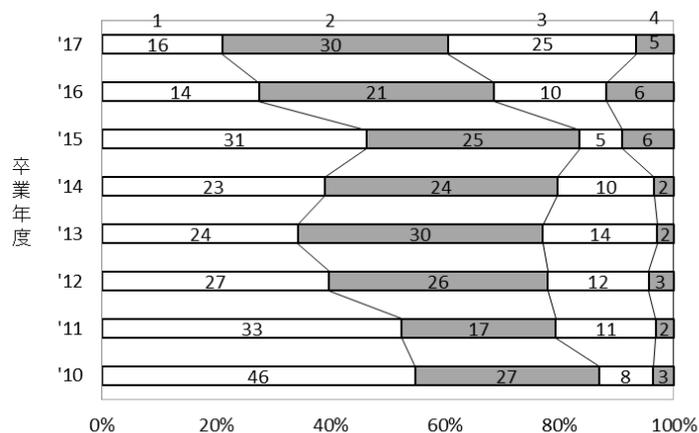
就職活動の開始時期は、M1 の 3 月からであることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散しているが、大体 M2 の 5-7 月である。就職活動の解禁日に依っている。

(C6) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

1. かなりあった
2. 少しあった
3. あまりなかった
4. 全くなかった

意見など：1件

（「かなりあった」、「少しあった」で6割に達している。過去に比べ減少しているが、それでも割合が多い。

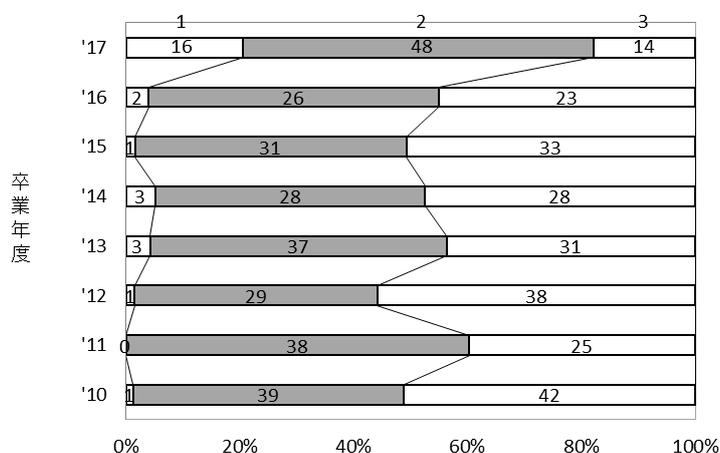


(C7) 企業等からの求人で学部やコースからの推薦を依頼されることがありますが、この推薦枠を利用されましたか。

1. 推薦を利用した
2. 推薦枠を利用しなかった
3. 知らなかった

意見など：0件

推薦を利用した人数が過去と比べると多くなっている。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。

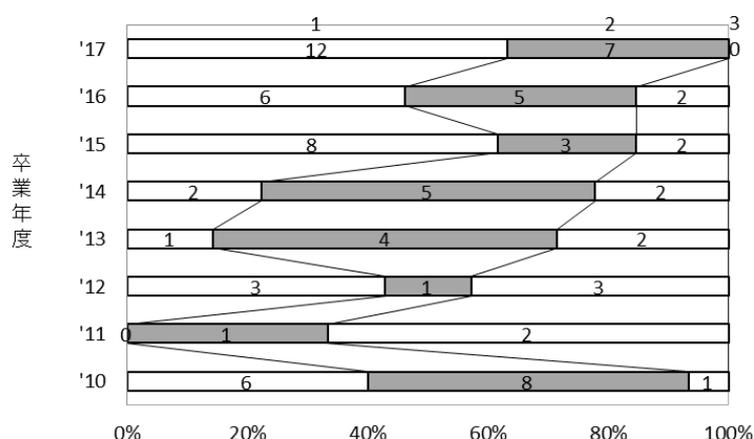


(C8) 大学院で学外特別演習(インターンシップ)を履修した人にお聞きします。(教育インターンシップも含まれます)インターンシップは卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった

意見など：3件

「役立った」との回答が増えている。



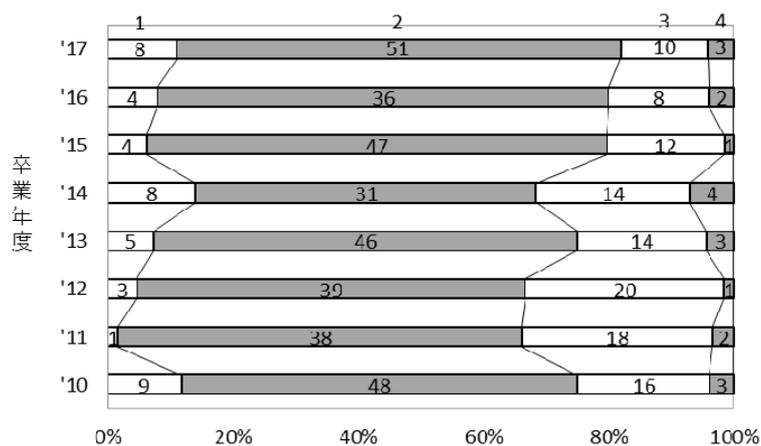
(C9) 就職相談・キャリア支援の体制お

よび情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：7件

「満足である」の割合が8割弱である。今後も体制を充実させる必要があるだろう。



熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は (D1) に進んで下さい）。

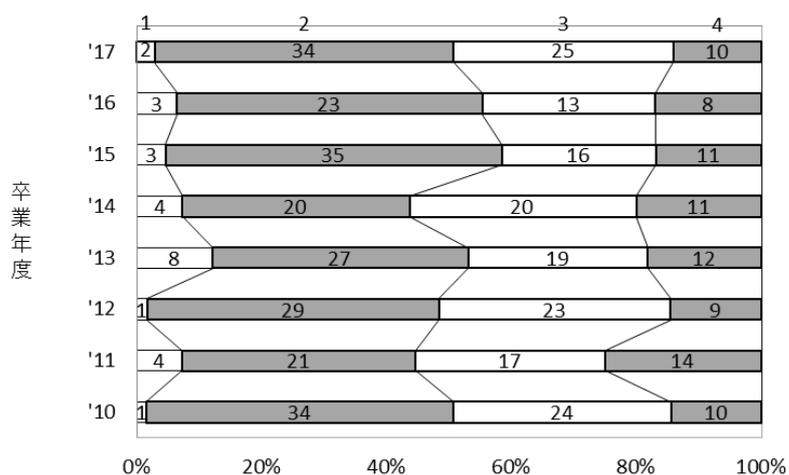
(C10) 就職活動で数学・理科の専門基

礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか。

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらもといえない
4. 役に立たなかった

意見など：2件

「採用の決め手となった」は2名だけであるが、「ある程度役にたった」までいれると約半数であり、ある程度の評価を受けている。



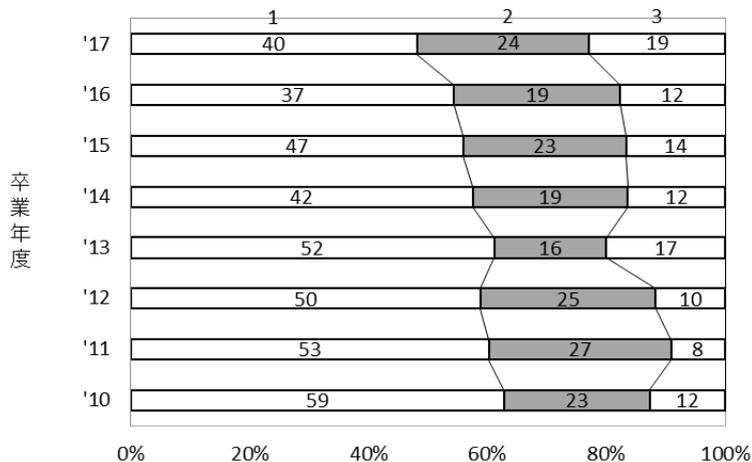
## D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか、必要なものがあれば挙げて下さい。

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

意見など：11件

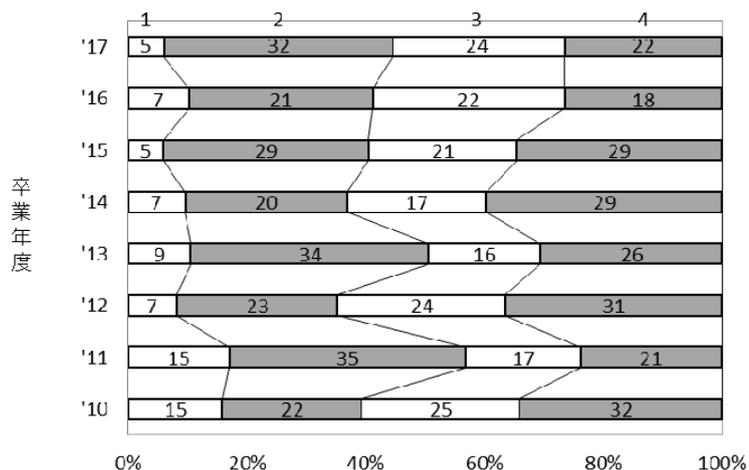
「十分」が5割である。図書館のような自修のために自由に使える場所が欲しかったという意見が多い。早急の課題である。



(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

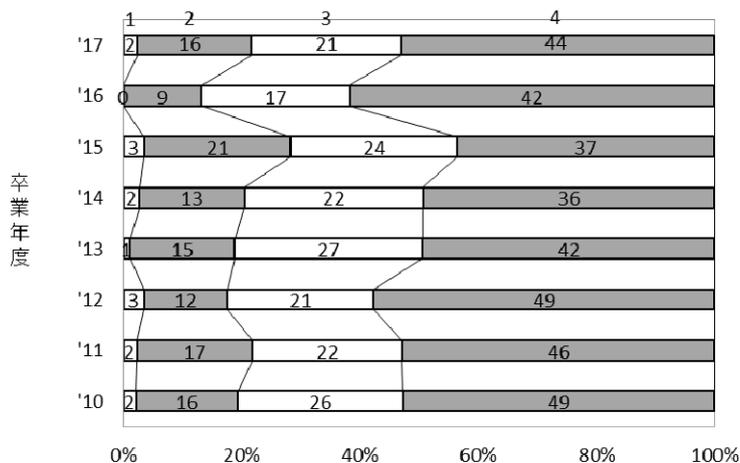
意見など：0件



(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

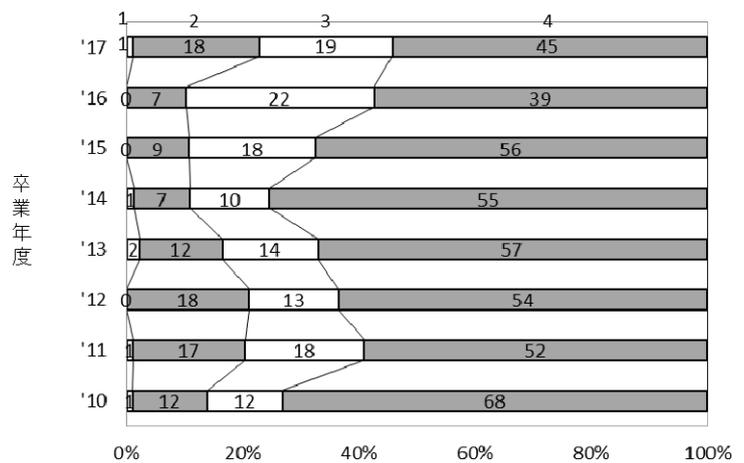
意見など：0件



(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

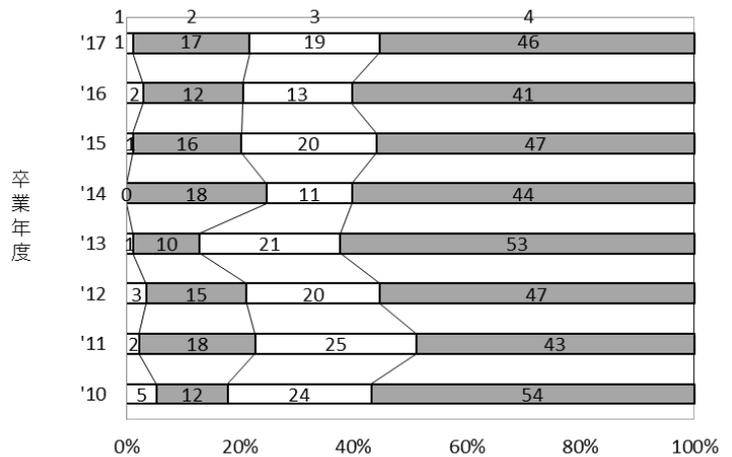
1. ほぼ全期間にわたってあった
  2. 時々あった
  3. 少しだけあった
  4. 全くなかった
- 意見など：3件

「少しだけあった」と「全くなかった」を足すと80%弱であった。比較的住環境等に問題を抱えている学生が少ないことが分かる。



(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

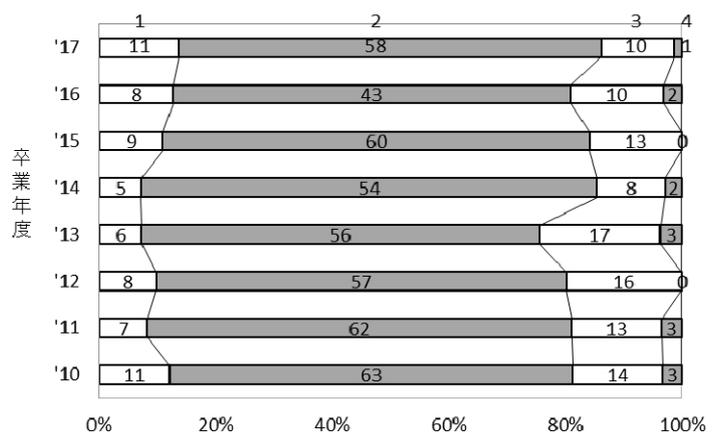
1. ほぼ全期間にわたってあった
  2. 時々あった
  3. 少しだけあった
  4. 全くなかった
- 意見など：1件



(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

1. 大いに満足である
  2. 満足である
  3. 不満足である
  4. 大いに不満足である
- 意見など：2件

相談体制に関して「満足」している院生が8割強で、現状の満足度は高い。

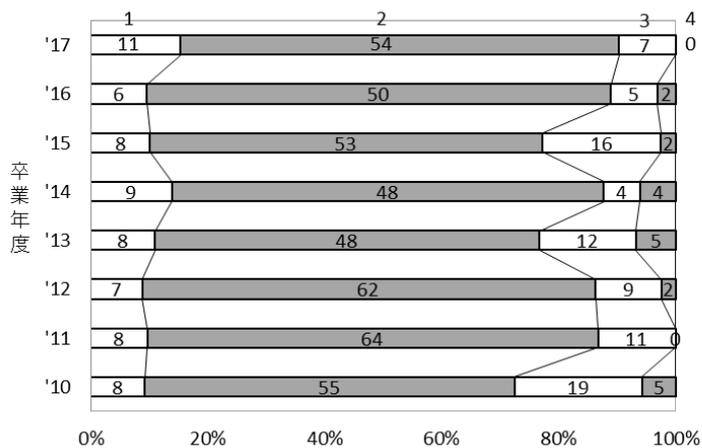


(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか。

- 1. 大いに満足である
- 2. 満足である
- 3. 不満足である
- 4. 大いに不満足である

意見など：9件

「満足である」が9割を占める多数となっている。「利用していない」という意見がほとんどであった。

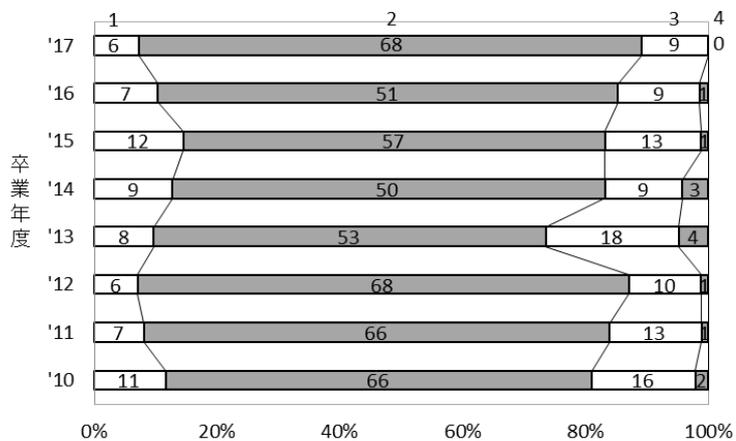


(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

- 1. 大いに満足である
- 2. 満足である
- 3. 不満足である
- 4. 大いに不満足である

意見など：0件

環境全体に関する満足度も高く、9割弱が「満足」と答えている。

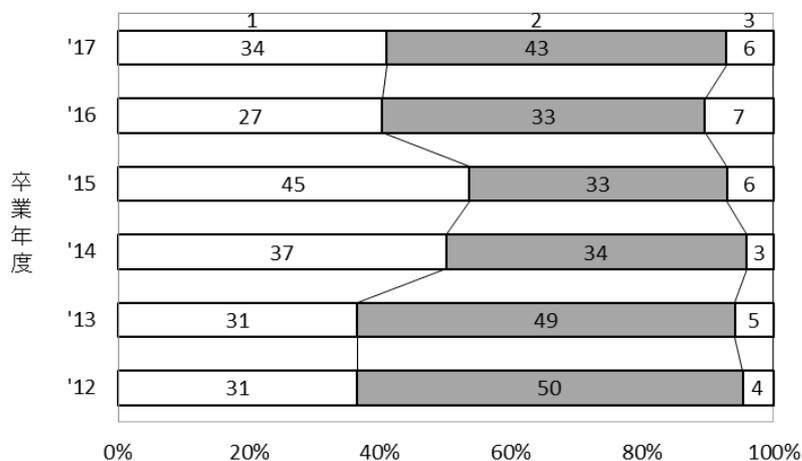


## E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

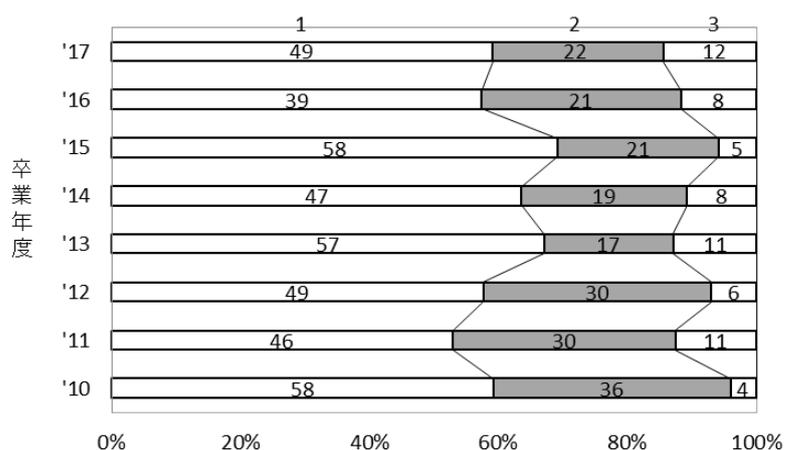
(E1) シラバスは良くよみましたか。

1. 良く読んだ
  2. 真剣には読まなかった
  3. 見ていない
- 意見など：1件



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

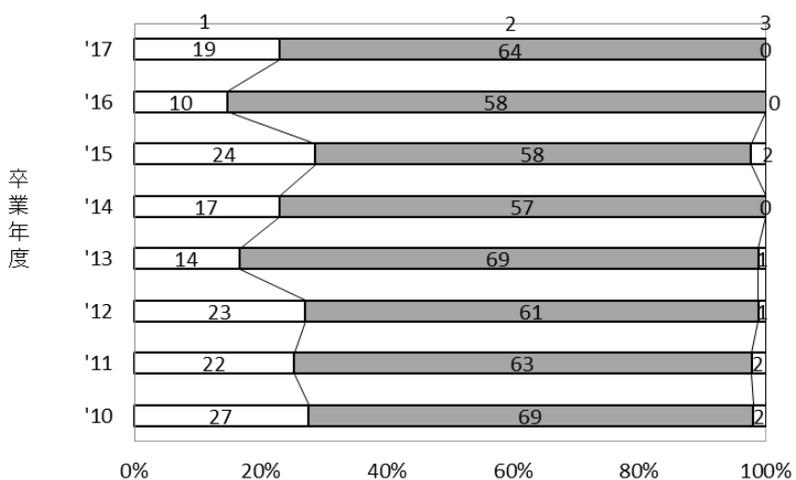
1. 役立った
  2. どちらとも言えない
  3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：1件



シラバスは「真剣には読まなかった」という意見が多く、履修科目の選択に「役立った」が6割弱である。大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかる。

(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方がよい
  2. 今の程度でよい
  3. その他
- 意見など：0件

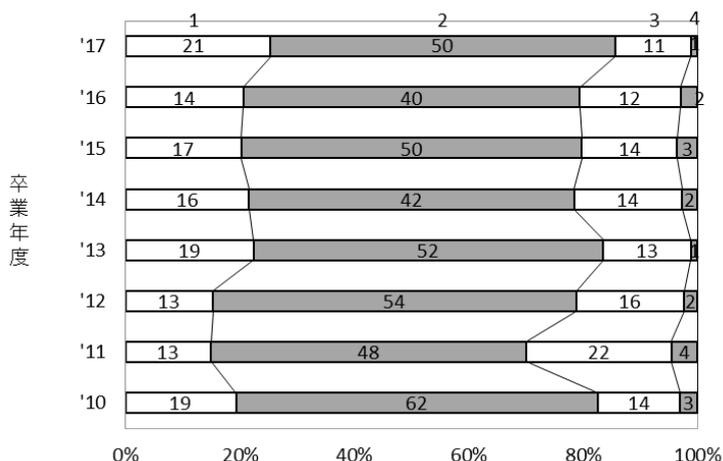


(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

意見など：1件

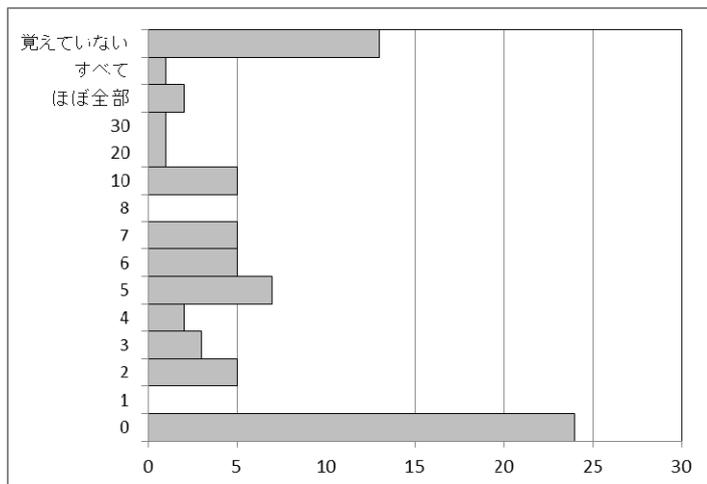
「行われている」と「多くの科目で行われている」を合わせて約 85%である。「行われている」の割合をさらに増やしていく必要がある。



大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きします。

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか。

回答数：74件



回答したことがないとする学生が多い。少人数の科目が多いためと思われる。アンケートについて見直す必要があるかもしれない。

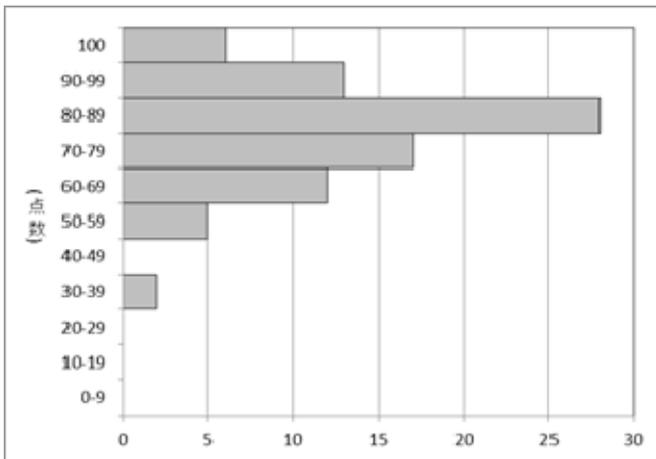


## F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

回答数：83 件



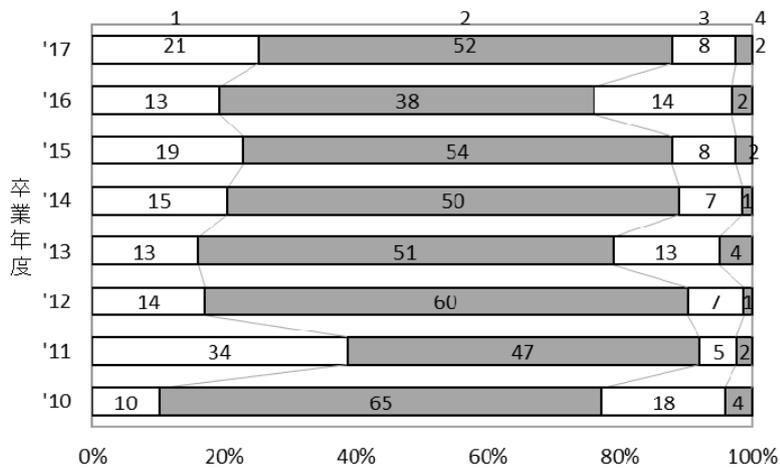
意見など：8 件

80-89 点をピークとしており、概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

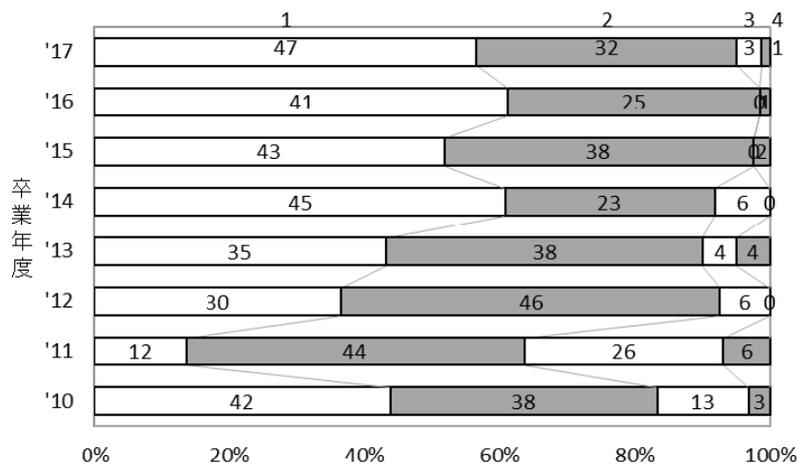
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の 4 段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

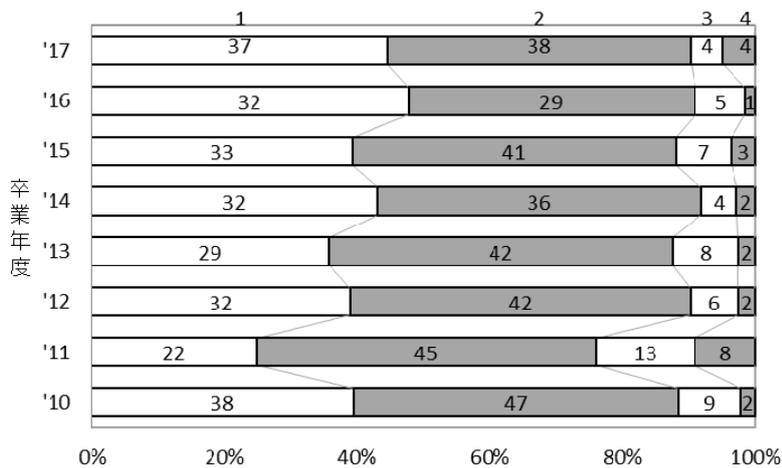
a. 授業科目の開設状況：



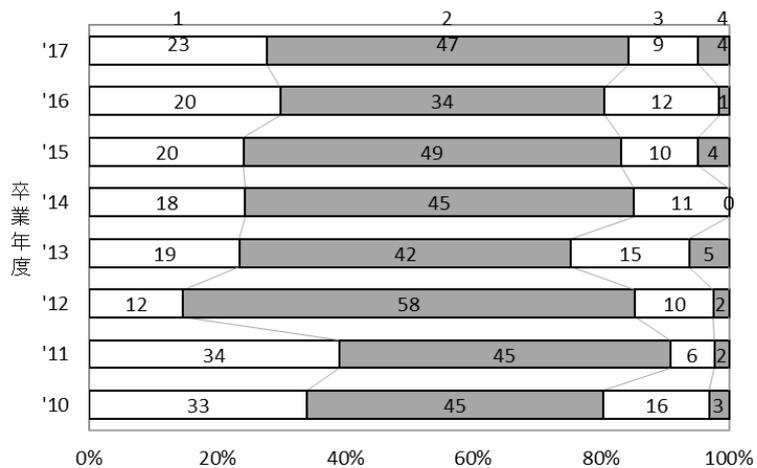
b. 修論等の指導 :



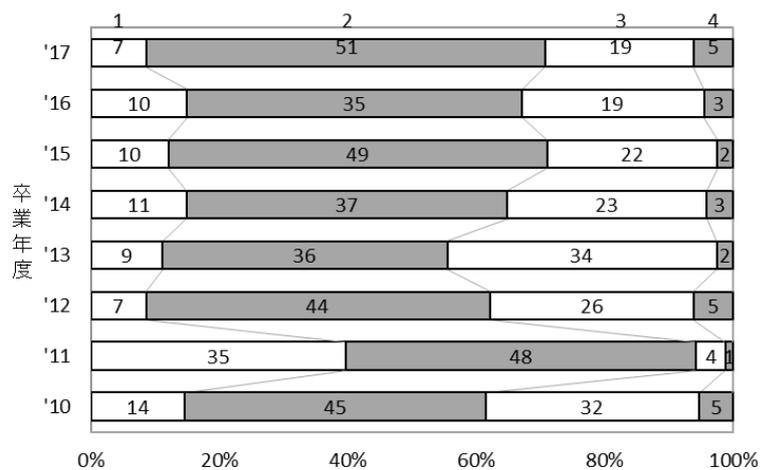
c. 研究室等での人間関係 :



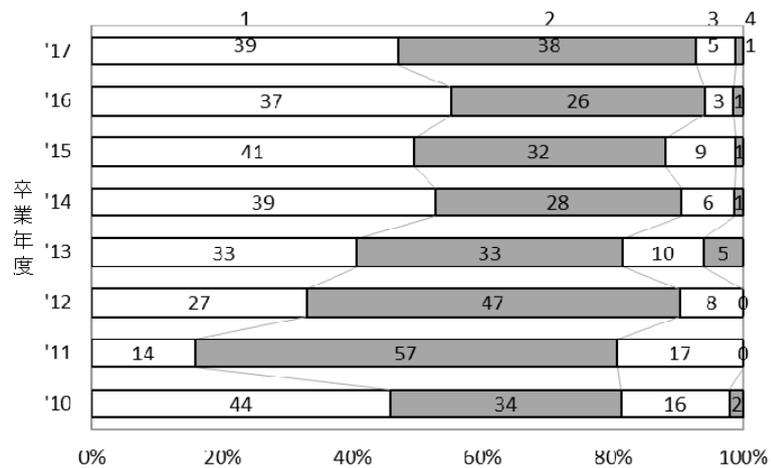
d. 施設や図書等の勉学環境 :



e. 国際交流：



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



意見など：2件

全般的に満足度が高いが、不満足という回答も少ないがあるので、個々のケアも必要であると思われる。